立命館小学校　2018年度　学校総括

教育目標	１２年間の一貫教育を見すえた「培根達支」の精神と「命ある限り学び続ける学舎」を確立するために、子ども達にとって「人生に必要な根っこ」を鍛え、「命輝く小学校」を作る。	中期目標	①小中高４－４－４制一貫教育推進のための校務運営・組織の一体化 ②小中高４－４－４制一貫教育における教育課題の実現 ③小中高一貫教育の独自課題の追求 ④ＳＧＨ、ＳＳＨ事業の充実・特色化と成果の発信及びＭＳコースの充実と他大学進学実績の向上 ⑤教育課題を推進するための環境整備

区分		A.課題（上位目標）		B.目標（中位目標）		C.達成目標（当年度目標）	D.自己評価	E.具体的施策（どのような方法で）
教学課題	Ⅰ	小中高４－４－４制一貫教育における教育課題の実現	1	１２年一貫教育のメリットを生かす教育内容の系統化と将来像の検討	(1)	２０２０年度新指導要領実施に向けたカリキュラム検討	◎	①教育改革検討委員会を設置し、現状と課題を分析整理しつつ、今後の本校の教育のあり方を検討し方向性を定める。 ②小中高の連絡連携、G7G8生徒の実態把握 ③「国際室」と連携し海外研修の適切な到達目標を検討する
					(2)	「国際教育」「海外研修」の指導カリキュラム確立	○	
					(3)	セカンドステージの課題と問題点の整理 及び改善策の検討	○	
			2	教科を中心とした教育内容の「系統化」の検討	(1)	各学年における学習内容・到達目標の再検討と検証	○	①「学習指導室」「研究研修室」を要として、各教科主任・部員と連携し、学習内容・達成目標を整理する
					(2)			
					(3)			
			3	Ｇ５・Ｇ６児童の長岡京登校の質的発展	(1)	一貫教育を視野に入れた上での意義のある通学内容の検討	○	①長岡京登校でしかできないことは何かを考えて取り組む ②長岡京登校の活動内容を十分吟味した上で、登校期間を検討し、児童にとっての学びのモチベーションが上がる教育活動にする
					(2)			
					(3)			
	Ⅱ	小中高一貫教育の独自課題の追求	1	小学校の「強み」と「弱み」の検証	(1)	小学校６年間で目指す学力到達目標の明確化	○	①小学校６年間の学力の到達状況のデータをもとにした検証 ②中学校・高等学校進学児童の学力の到達状況のデータからの検証 ③情報科部・ICT教育推進部によるカリキュラム確立に取り組む ④Ｇ３Ｇ４におけるハーフクラス指導を新規導入し力の基礎固めをする
					(2)	文科省認定「情報科」（ﾛﾎﾞﾃｨｸｽ・ICT）のカリキュラム確立	◎	
					(3)	真の国際人の育成に向けた更なる英語力育成を進める	○	
			2	教育の４つの柱の現状と課題の明確化	(1)	「確かな学力の形成」の現状と課題把握	○	①４つの柱における児童の実態をデータも含め日常的に把握する ②定期的に学習習得データをとり、指導の検証に取り組む ③外部検定等も活用し、到達度を検証していく ④「五つの誓い」における目指す児童像の教師間児童間の理解徹底
					(2)	「真の国際人」「豊かな感性」の学びのシステムの課題把握	○	
					(3)	「高い倫理観と自立心の育成」の実践的探求	○	
			3	「評価を伴う所見標記」の１年目として、本校が担う「立命科」の指導と評価の検証	(1)	人格形成に関わる「倫理観と自立心」の指導のあり方探求	◎	①評価評定実施の初年度として「立命科」の指導研究に取り組む。 ②全担任が校内研究授業を行い指導案検討・評価評定方法を提案する ③教員全体で、評価評定方法、所見の書き方を学び合う
					(2)	評価評定としての所見記入の方法と内容表記の確立	◎	
					(3)			
	Ⅲ	ＳＧＨ、ＳＳＨ事業の充実・特色化と成果の発信、及び、ＭＳコースの充実と他大学進学実績の向上	1	グローバルリーダー育成のための国際交流・国際教育のあり方についての検討	(1)	１２年一貫教育を通した英語力到達指標の確立	○	①英語科と連携して、過去の到達データをもとにした検証を行う ②国際室及び国際専門担当を設置し、国際交流・学校交流を進展させる ③留学に関わる事前学習・事後学習、及び報告会を充実させる
					(2)	本校の海外語学研修事業の課題把握と改善推進	◎	
					(3)			
			2	学びのモチベーション（学びの構え）を作り高めるための指導の強化	(1)	立命館に通い学ぶ事の誇りと自信を抱き続ける児童の育成	○	①教員が児童の心のコップを上向きにする意識を持ち日常指導する ②自ら学びを追究していく「自学習」への取り組みを意図的に行う
					(2)	知的好奇心を持ってあらゆる事から学び続ける児童の育成	○	
					(3)			
			3	学力向上に向けた指導の方策検討	(1)	国語力の伸長化を目指す	△	①５，６年生の国語・算数の授業において演習カリキュラムを導入する
					(2)	算数学力における下位層の底上げと上位層の引き上げる	○	
					(3)			
管理運営課題	Ⅰ	小中高４－４－４制一貫教育推進のための校務運営・組織の一体化	1	学校組織一体化に伴う２年目の組織運営の実施及び課題の確認	(1)	校舎分離型一貫校としての円滑な組織運営の在り方の探求	○	①小中高・同じ分掌の組織運用の善し悪しを日常組織活動を通して点検する
					(2)			
					(3)			
			2		(1)			
					(2)			
					(3)			
			3		(1)			
					(2)			
					(3)			
	Ⅱ	教育課題を推進するための環境整備	1	情報科（ﾛﾎﾞﾃｨｸｽ・ＩＣＴ）設置に伴う各教室等のＩＣＴ教育環境整備	(1)	各教室に授業活用のための新規常設ＩＣＴ機器の設置	◎	①「ＩＣＴ校内環境整備委員会」を今年度も設立する ②数年先を見通し、授業効率が上がる、最新最先端の機器の選定し設置する
					(2)			
					(3)			
			2	特別支援体制の構築	(1)	児童の個別相談や個別支援に対応した居場所を作る	○	①児童サポートルームの新設を計画する
					(2)			
					(3)			
			3		(1)			
					(2)			
					(3)			
	Ⅲ		1		(1)			
					(2)			
					(3)			
			2		(1)			
					(2)			
					(3)			
			3		(1)			
					(2)			
					(3)			

達成状況	・目標に向け取り組めたことは、主に次の点である。一つ目は、２０２０年度の教育改革に向けて、特別委員会を立ち上げ、新カリキュラム・年間行事・国際化・ICT学習・そして、働き方改革等様々な領域において審議検討し、方向性を示すことができたことである。二つ目は、海外研修・国際理解の新たな進展である。指導に関しては、研修に向けた事前学習・研修後の事後学習等をしっかりとり、より意義有る海外研修にできた、また、新しい交流として、タイの王立小学校と次年度から児童交流できるようになったことである。三つ目は、情報科のカリキュラム確立である。昨年度は試行的な内容であったが、今年度は年間通した指導計画をしっかりと作り上げることができ、様々な教科においてＩＣＴ機器を活用する場面が増えた。四つ目は、道徳教育の「立命科」についてである。全校立命を取り入れ、異年齢小集団である生活テーマについて話し合う授業を年間数回取り入れることができ、また、昨年度の研修を経て、道徳評価所見記入の１年目として、各学期ごとに報告し、保護者にしっかりと児童の学びを伝えることができた。五つ目は、ＩＣＴ校内環境整備が整ったことである。３学期には、高学年教室において「電子教卓」と「短焦点プロジェクター」の設置が完了し、教室に新しい学びの空間が出来た。低中学年においても、次年度夏には全教室に完備できる予定である。
改善策	・国語力の伸長化については、演習の時間等を取り入れたが、次年度も検証を繰り返し、児童の学力向上に結びつけていく必要がある。 ・教育改革委員会の具体案推進を２０１９年度は早期に取り組む。（新カリキュラム改訂・年間行事精選・国際理解教育の新展開・新しい学力観に立った児童の見取り及び評価改訂・立命館小としての新しい学びのスタイルの確立等） ・２０２０年度改革はもとより、２０３０年に向けた向こう１０年間の立命館小学校ビジョンの審議検討をすすめる。
支援希望	・児童の多様化の課題に関わっては、引き続き検討する。教員だけでは、限界もあり、専門機関や外部機関との連携を密にした指導が必要である。教育相談支援センターのような組織の確立と施設充実を進め、その指導が遂行できるような体制の強化を今後も図っていく必要がある。